

日興AMファンドアカデミー
ベーシック

前を向く人の、投資信託。

After / With アフター/ウィズコロナの ファンド選びについて 日興アセットがお伝えしたいこと



2月中旬から急落した世界の株式やREIT市場は、3月20日頃から一転、急速な立ち直りを見せています。正直なところ予想外の展開と感じている方も多いでしょう。

「戻った今のうちに売ろう」、「一旦売って、第2波で下がってから買おう」、「上がっていくなら、えい！もう買ってしまえ」—こんな風になってしまうのは、個人の資産形成・資産運用の成功は遠のくばかりだと、日興アセットは考えています。

日興アセットマネジメント

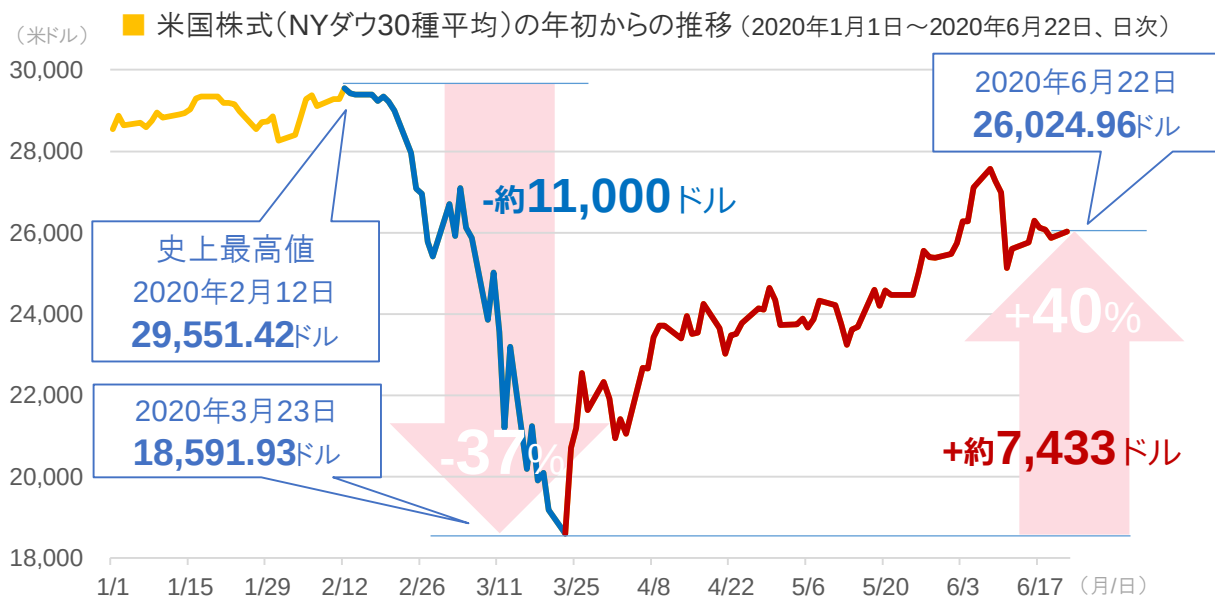
1 「暴力的な2月・3月」を経て 意外なほどの「その後の展開」

2月中旬から急落した世界の株式やREIT市場は、3月20日頃から一転、急速な立ち直りを見せています。正直なところ予想外の展開と感じている方も多いでしょう。

「戻った今のうちに売ろう」、「一旦売って、第2波で下がってから買おう」、「上がっていくなら、えい！もう買ってしまえ」—すでに投信を持っていた方の中には、そんな風に思っている方も少なくないのでは。

そして、資産運用のスタートを検討していた方は、「上がったたり下がったり。やっぱり分からないから止めておこう」と思ってしまったかもしれません。

その両方とも、非常に残念なことだと日興アセットは考えます。

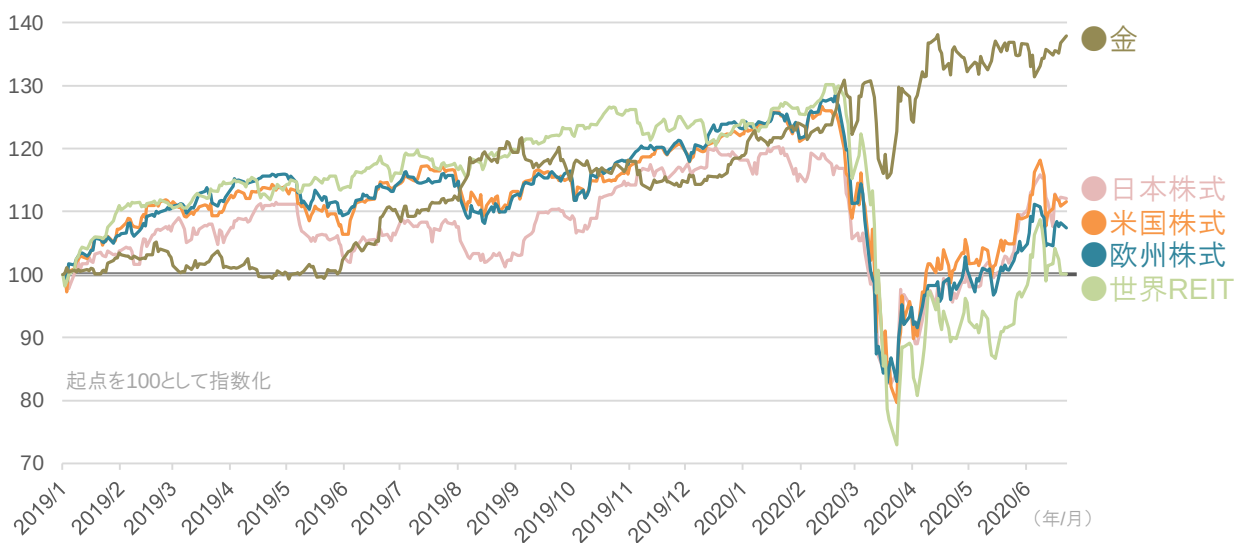


上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

2 おびえ 「第2波への怯え」と「前向きな楽観」 ～株価は人々の未来への想像力を反映するもの

米国株式だけでなく、他の資産も同じように3月下旬を底に、急ピッチともいえる回復を見せています。ホテルやショッピングモールなど、人の動きが止まった影響を受けがちなREITのインデックス(指数)はやや戻りが鈍いようです。一方、3月に株式等と一緒に多少下げた「金」は、その後の堅調さが目を引きます。

■ 主要資産の値動き (2019年1月1日～2020年6月22日、日次)



上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。金：NY金先物、世界REIT：S&PグローバルREIT指数(配当込)、欧州株式：STOXX欧州600指数、米国株式：NYダウ30種(いずれも現地通貨ベース)、日本株式：日経平均株価

マーケットが意外と堅調な理由はおそらく3つ。

1つ目に「株価は常に人が想像しうる未来(将来の業績等)を先取りするもの」という元来の性質。**2つ目**に、ゼロ金利に置いておけない巨額のマネー(年金や保険など)が世界に溢れているという事実。そして**3つ目**が、各国が必死で打ち出す政策の裏側でお金が動きやすくなっているというマネー事情です。

短期の投資家のマネーは前向きな将来を織り込んで、株式や利回りの残る資産に向かっています。一方「第2波」ばかりは織り込めないため、今後も「第2波への怯え」と「前向きな楽観」との間で揺れ動きつつ、それでもマーケットは前進していくのだと考えるべきでしょう。

アフター・コロナを見据えて 持つべき視点

Nikko AM Fund Academy Basic

前を向く人の、投資信託。

1

アフター・コロナの視点 ①

残念ながら「マーケットはひとつ」だが、 自分に固有の「目的と時間軸」を考える

長期の資産形成を期する私たちと、日々のマーケットで勝負をする人たちとは、良い悪いの話ではなく、「**目的と時間軸**」がそもそも異なります。しかし「マーケットはひとつ」なので、彼らが動かす日々のマーケットの変動は否応なしにファンドの基準価額に表れて、私たちを悩ませます。

日興アセットが信じ、皆さんにおススメしたいのは、「人間の欲に限りがない以上、**経済は右肩上がり**」、「どんな困難もやがて克服し、前進は続く」、「であるならそれを反映する株価も長期で右肩上がりのはず」といった“**意思ある楽観論**”。

国際通貨基金は6月下旬に「世界経済見通し」を発表。厳しい見方を示しました。しかし私たちの「目的と時間軸」にとって大事なものは、四半期毎に見直される**今年と来年の成長スピードの議論ではなく、お金が必要になって投信を解約するだろう5年後や10年後や20年後の将来**に向かって、果たして世界は縮小していく一方なのか、やはり拡大していくのかーただ、それだけのはずです。

■ 国際通貨基金(IMF)の世界経済見通し(2020年6月24日発表)

実質GDP、年間の増減率、%	2019	2020(予)	2021(予)
世界GDP	2.9	-4.9	5.4
アメリカ	2.3	-8.0	4.5
ユーロ圏	1.3	-10.2	6.0
日本	0.7	-5.8	2.4
イギリス	1.4	-10.2	6.3
中国	6.1	1.0	8.2

出所: 国際通貨基金(IMF)2020年6月「世界経済見通し(WEO)改訂見通し」
上記は過去および予想であり、将来を保証するものではありません。

2

アフター・コロナの視点 ②

イノベーションの加速を意識する

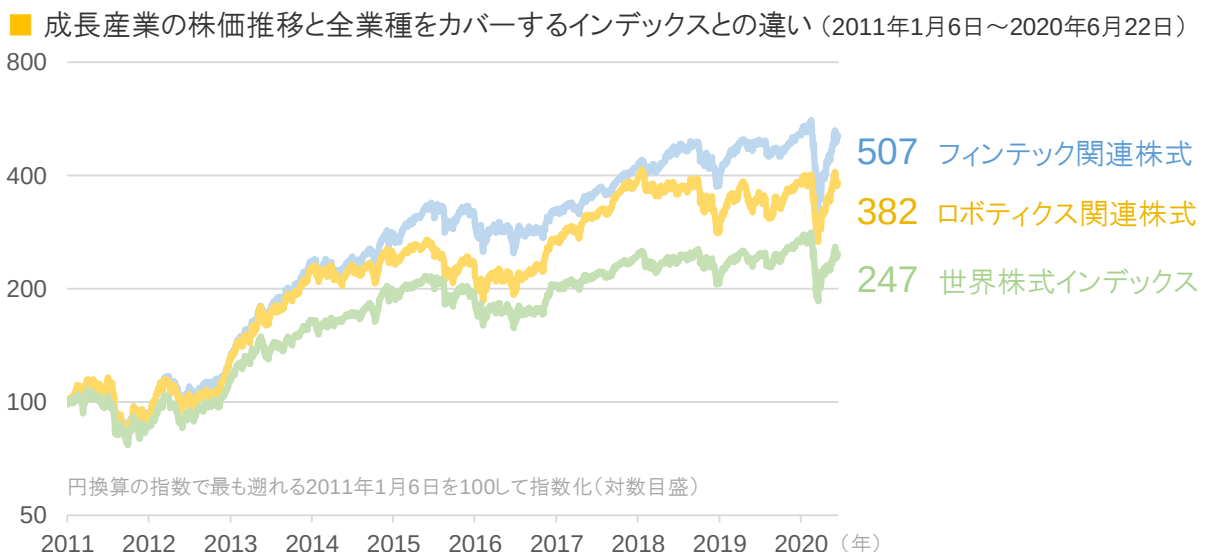
今回の「ショック」は、社会にイノベーションの重要性を深く刻み込みました。それは私たちの資産運用にとっても無関係ではありません。「目的と時間軸」が本気で、長期であればあるほど、今後**構造的に追い風となる産業や企業**を選び、変化に対応できない産業や企業を避ける投資をすべき、という視点は今後非常に重要になるはずです。

今回の「ショック」が短期間で
深く社会に刻んだ
イノベーションの萌芽

- 在宅勤務で実感した**インフラ強化**需要
- 人手を必要としない様々な**自動化**需要
- 感染リスクからの**キャッシュレス**普及
- ワクチン製造からの**ゲノム**解析の進展

下図のようにこれまでも存在した「**全平均**」と「**成長期待産業**」の**株価の格差**には、今後さらなる拡大が予想されます。もちろん成長期待の「アテ」が外れた場合は目も当てられませんし、期待の裏返しで日々の変動が大きくなりがちなので、全ての方に「成長期待産業」に絞り込むことを推奨できるものではありません。

それでも過去約10年で、世界株式インデックスとフィンテック関連株式の上昇率に2倍以上の差がついていた点は、どうしても見逃せない事実といえます。



上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。フィンテック関連株式：ファクトセット・グローバル・フィンテック・インデックス、ロボティクス関連株式：ROBO STOXX指数、世界株式インデックス：MSCI世界株式指数 すべて円ベース

コストからでなく リターンのことから考える

ネットを検索すると、「世界株式の指数に連動するインデックスファンドのうち、コスト（信託報酬）が最も低いものを選ぶこと」が唯一の正解であるかのような意見を目にすることがあります。

しかし、指数会社が算出する指数の中身について深く考えずに、信託報酬率の0.01%の差を神経質なほどに気にする風潮には違和感を覚えます。なぜならどんなにコストが低くても、基本的にそのインデックスファンドは、参照する指数以上には上がってくれないからです。

前ページのグラフでいえば、どんなに「低コスト」であっても、それが世界株式と連動するインデックスファンドである限り、「緑の線」を超えてひとり上がり続けることはありません。

インデックスとの違い（2011年1月6日～2020年6月22日）



前ページのグラフの一部を拡大したもの。

「**目的と時間軸**」が本気で、長期であればあるほど、将来いつか解約するその時に、その後の人生を助けてくれる十分なお金にしっかりと増えてくれていることが、最も重要なのではないのでしょうか。

だとすると、今必要なファンド選びの視点とは、将来の世界の変化を自分なりに想像し、それを資産運用に活かそうという考え方。すなわち「**リターン**」のことを先に考え、**投資対象を真剣に吟味する**スタンスのはずです。

HPのランキングや、コストによるフィルタリング（絞り込み）でファンドを選ぼうとする人がいたら、日興アセットがお伝えたいことはひとつ。—「コストはもちろん大事。でも**考える順番はあくまでリターンのことが先**であるべき」ということです。



4

アフター・コロナの視点 ④

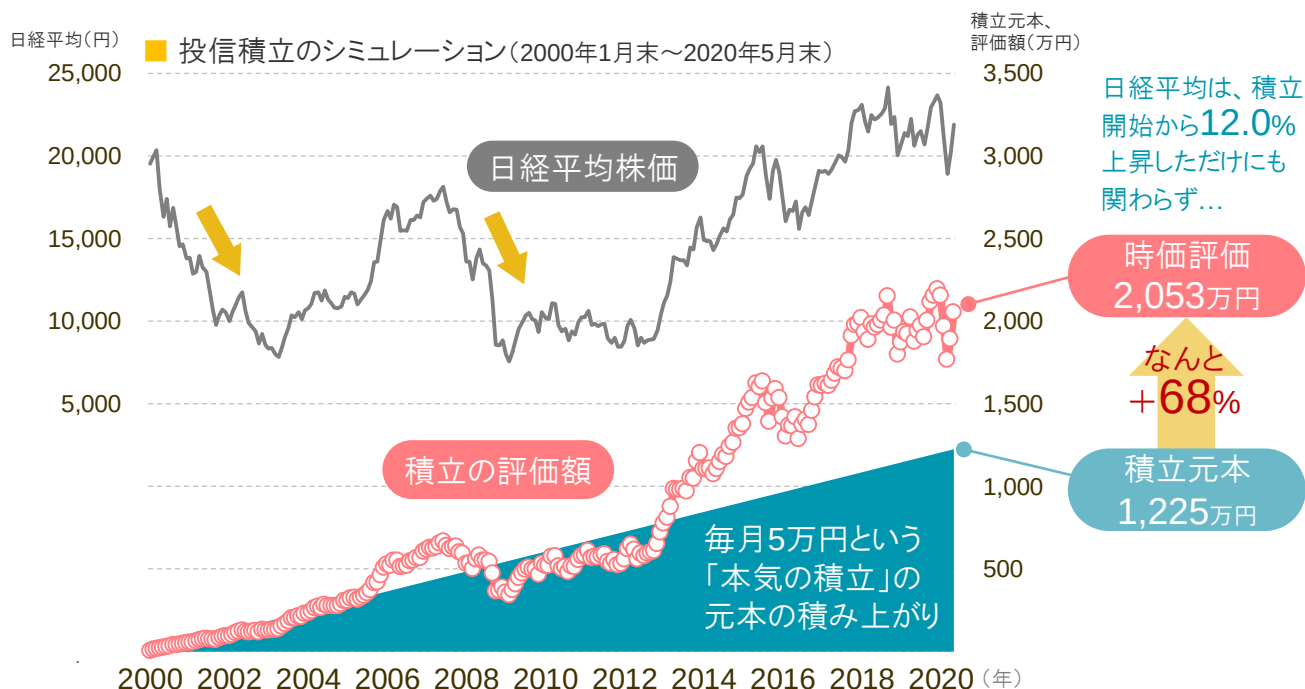
市場に居続ける覚悟のもと、 「本気の投資」と「本気の積立」を続ける

「第2波への怯え」と「前向きな楽観」との間で変動の大きなマーケットは続くと見られる一方、タイミングを計って買い時を探すのは、長期の大きな資産形成の観点では時間の無駄遣いかもしれません。

自分の将来の「**目的と時間軸**」のためにマーケットに入っていくのなら、タイミングを計るのではなく「とにかく始める」、でも「一回で買うのではなく分けて買う」、一番いいのは「**本気の金額で積立をセットしてしまう**」こと。

特に毎月定額で行なう投信積立は、口数をより多く仕込める下落時こそが、その後の成功のカギを握ります。「**下がった方が嬉しい**」、「口数をできるだけ溜め込んで、**上がるのは最後でいい**」、「だからこそ変動の大きなもので積み立てるんだ」

—そんな風に考えられる人こそが、将来大きな果実を手にするのだと、日興アセットは信じています。



日経平均を対象に毎月5万円の積立をしたシミュレーション。日経平均はスタート時から約12%しか上の位置にいないのにもかかわらず、積立の時価評価は約7割のプラスに。この驚くべき結果の理由は、下落時にも止めずに続けたこと。2度の大きな下落時に(安くなった分同じ金額でも多くの口数が買えるため)たくさんの口数を溜め込み、それが後半の上昇時に花開いている。

●各月末の日経平均株価に定額積立をしたと仮定したシミュレーションです。税金・手数料等は考慮していません。●資産運用に関する考え方を示すことを目的としたものであり、特定の商品の利回り等を保証・示唆するものではありません。●信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成



nikko am
日興アセットマネジメント

●当資料は、日興アセットマネジメント株式会社が投資信託についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。●投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。●当資料の図表等はすべて過去のものであり、将来の市況環境の変動等を約束するものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また記載内容の正確性を保証するものでもありません。